

## P-21

後索を上行するCGRP含有一次求心線維について

玉谷実智夫、仙波恵美子、遠山正彌

(阪大・医・第二解剖)

後根神経節(DRG)からの一次求心線維の中  
枢への投射路には、後角で終わるものと、後  
索を上行して後索核に終わるものがある。  
前者については、substance Pはじめ種々の  
peptideの関与が明らかにされているが、後  
者については報告がない。

最近我々は、後索、特に薄束に多数の  
calcitonin gene-related peptide(CGRP)陽  
性線維を認め、後索を切断すると切断部の下  
方にCGRPが蓄積することより、これらは上行  
線維であることを見出した。一方、DRGに  
は、小型細胞に加え中～大型のCGRP陽性細胞  
が認められることはよく知られている。そこ  
で後索に蛍光トレーサーFast Blue(FB)を注  
入し、胸・腰髄DRGで認められるFB標識細胞  
がCGRP陽性を示すかどうかを検討した。FB標  
識細胞は各レベルで均等に認められ(Th4-L5  
)、そのほとんどが中～大型であった。その  
うちの約10%がCGRP陽性を示し、全て大型細  
胞であった。CGRP陽性細胞はその80%が小型  
細胞で、残りが中～大型である。

以上より、DRGのCGRP陽性大型細胞の一部  
が、脊髄後角には終わらず、後索を上行して  
後索核に終わることが明らかとなった。その  
機能的意義について考察を加えたい。

## P-22

ラット網膜色素上皮細胞におけるフォドリン  
の局在について

仁平美果、藤本豊士\*、上野聡樹、本田孔士、  
小川和朗\*

(京都大・医・眼科、解剖\*)

目的：哺乳類の脳から分離精製されたフォド  
リンは赤血球のスペクトリンと共通の性質を  
多く持ち、膜構造の維持に関係していると考え  
られているが、その局在については、未だ  
一部の細胞においてしか明らかにされていな  
い。今回我々は網膜色素上皮細胞(RPE)にお  
けるフォドリンの局在を免疫細胞化学的に検  
索したので報告する。

材料と方法：成熟ラットの眼球を、3-8%ホル  
ムアルデヒドあるいは3-8%ホルムアルデヒド  
と0.1%グルタルアルデヒドの混合液にて灌流  
固定した後、顕微鏡用及び電顕用の凍結切片を  
作成し免疫標識を行った。一次抗体として抗  
ラット脳フォドリン、二次抗体としてFITC標  
識あるいはフェリチン標識の抗体を用いた。  
結果と考察：顕微鏡では、RPEの基底部及び頂  
部に蛍光標識が強く認められたが、細胞間部  
の標識は明確でなかった。電顕では、フェリ  
チン標識は、基底陥入部の形質膜に沿って、  
及び頂部微絨毛の基部付近に多く観察された。  
また、細胞間部では形質膜に沿ってわずかに  
標識が見られた。視細胞外節貪食時のフォド  
リンの動態及び他の細胞骨格成分との関連に  
ついて今後検討する予定である。